

## 地域と空港の一体的かつ持続的な発展に向けて(令和5年6月定例会)

### 報告:『新しい成田空港』構想検討会中間とりまとめの概要

『新しい成田空港』構想は、2022年10月より学識経験者、国、県、地元3市町を委員とする検討会を設置し意見交換を行っており、令和5年3月の第5回検討会において、今後の取り組みの方向性について見解の一致が見られたことから、中間取りまとめとして整理したとのことでした。目指すべき国際拠点空港としてのあるべき姿として、世界とつながる多様なネットワークを

もつ国際ハブ空港<sup>(注4)</sup>、地域と空港が相互に連携し、一体的かつ持続的に発展していくための積極的な取り組みと雇用の確保等を掲げており、その実現に向けた取り組みとして、年間発着容量50万回に向けた更なる機能強化の推進のほか、旅客ターミナルを再構築し、集約型のワンターミナルとすること等、5つの取り組みを検討するとのことでした。『新しい成田空港』構想の

進め方については、機能強化の完成から大きく遅れることなく実現を目指していくとのことでした。



成田空港

(注4)ハブ空港…各地からの航空路線が集中し、乗客や貨物を目的地となる他の空港に中継する機能を備えた、地域の拠点となる空港。

### 報告:騒音地域における環境整備調査委託

成田空港の更なる機能強化が推進されている中、地域と空港の共生の実現に向けて、成田空港のプラスの効果騒音地域にも及ぶよう、地域の特性を生かした振興策を検討するため、環境整備調査を行うとのことでした。騒音地域における地域振興のニーズ把握や地域資源等の分析を行い、地域振興メニューを策定するものであり、調査

の実施に当たっては、民間事業者の専門知識やノウハウを活用するとのことでした。

#### 主な質疑

**Q** 市全域住民の地域振興に係るニーズを把握するための手法は。

**A** 現時点ではアンケート調査を想定しているが、委託業者からの提案次第では、その他の方法によ

ることも考えられる。また、アンケート調査を実施する場合の対象地区は、騒防法第一種区域とその他の市内全域を想定しているが、アンケートの対象者数や実施の詳細については、委託業者の専門性を生かせる部分であると考えられることから、委託業務開始後に検討していく。

## 国際線の旅客数が着実に回復(令和5年9月定例会)

### 報告:成田空港の現状と更なる機能強化の取り組み

成田空港の旅客数の推移では、国際線において、直近2カ月は連続して200万人を突破し、2023年7月の段階で、コロナ前と比較して70%まで回復しているとのことでした。更なる機能強化の進捗状況等では、B滑走路延伸部における東関東自動車道切り回し道路工事のほか、成田空港内で活動する事業者や従業員の実態を把握するために実施した2022年度成田空港内従業員実態調査結果、成田空

港における今後のさらなる需要回復を見据えて開催した合同企業説明会・空港見学会等について説明がありました。

#### 主な質疑

**Q** 地域未来投資促進法<sup>(注5)</sup>に基づく土地利用規制の弾力化に伴い、下福田地区に物流拠点施設を整備するとの報道があったが、その規模等を把握しているのか。

**A** 開発規模は45ヘクタールの予定で、用地は買収済みとのこと

であり、今後、諸手続きに入っていくと思われる。



令和5年9月時点の成田空港

(注5)地域未来投資促進法……地域の特性を活用した事業の生み出す経済的効果に着目し、これを最大化しようとする地方公共団体の取り組みを支援する法律。

### 報告:成田空港の国際線ネットワークの充実・強化等に関する申し入れ

新たな20万回の年間発着容量の確保を踏まえた、首都圏空港における国際航空需要への対応の在り方について検討を行うとともに、

成田空港の国際線ネットワークの充実強化や、我が国の産業競争力の強化等について迅速に取り組むよう、9月1日に千葉県および成田

空港圏自治体連絡協議会より、国に対して申し入れを行ったとのことでした。